

令和4年度 長岡京市東地域包括支援センター（基幹担当）アクションプラン及び実績報告

「いきいき・あんしん」～支えあいのまちづくり～

| 東包括の目標 | アクションプラン | 令和4年度実施内容 | 評価 | 課題・改善点 |
|---|---|---|--|---|
| <p>「いろんなことを包括的に受け止める包括へ」</p> <p>・地域包括支援センター等の対応力の向上と連携の推進</p> | <p>地域包括支援センターの調整機能</p> <p>地域包括支援センターの実施する個別支援や地域支援の力をより高める取り組みを実施する。</p> <p>○地域包括支援センター職員スキルアップ研修の実施（年1回） ○総合相談等の対応力向上を目指した事例検討の実施（年2回） ○専門職部会の実施（各年3回）</p> | <p>○専門職部会の実施</p> <p>医療職部会：5/19 介護予防カレンダーの内容について検討 社会福祉部会：7/21・9/12・10/17 高齢者虐待対応帳票の見直し 主任ケアマネジャー部会：10/20・2/16 社会資源の情報更新</p> <p>○地域包括支援センター職員のスキルアップ研修：未実施</p> <p>○総合相談の対応力向上を目指した事例検討の実施： 無料法律相談の振り返り会 3/22 実施</p> <p>○成年後見活用講座 3/3（総合生活支援センターと共催）実施</p> | <p>医療職部会：介護予防カレンダーの内容について医療職で検討し、内容についても、包括間で共有でき、色々な意見をいただく事が出来た。</p> <p>社会福祉部会：虐待対応帳票について見直しを行い、修正出来た。</p> <p>主任ケアマネジャー部会：社会資源の情報更新を実施出来た。</p> <p>研修：実際の相談ケースを聞く事で、対応方法について学ぶことが出来た。</p> | <p>医療職部会：出張講座の内容を情報共有するなど、介護予防の取り組みを検討していく。</p> <p>社会福祉部会：虐待対応マニュアルや虐待対応会議の開催方法について、適切な判断や対応が行いやすいように、内容の検討を重ねていく必要がある。また、研修を求める声もある為、次年度に検討する。</p> <p>主任ケアマネジャー部会：情報の更新だけでなく、地域ケア会議・個別ケア会議など情報共有していく。</p> <p>研修に関しては、次年度に開催内容・時期を校区包括と検討していく。</p> |
| | <p>認知症初期集中支援チームの効果的な運営</p> <p>各地域包括支援センターや関係機関と積極的な連携を図り、チームの強みを活かした支援を展開する。</p> <p>○各校区6ケース以上の連携を目標としたチーム運営</p> | <p>○各校区6ケース以上の連携を目標としたチーム運営</p> <p>対応ケース：東6件・西4件・北3件・南1件</p> <p>チーム委員会 月1回開催（これまで12回開催）</p> <p>書面開催・zoomを使用し、継続して開催できている。</p> <p>オレンジルーム主催の「楽しく運動できるカフェ」「なかの邸」「天神カフェ」「ピノカフェ」などにも参加し、チームが対応している以外の認知症の市民の方とも交流した。</p> | <p>チーム委員会については、オンラインでも対応し、会議が継続出来ている。各包括からのケースの相談は、継続していただいている。チーム員がそれぞれのカフェの場に訪問し、各包括で対応している認知症のある市民の方とも関わる事ができ、良かった。</p> | <p>・チームへの相談は、各包括より継続してある。今後も継続して相談いただけるよう、対応していく。</p> <p>・オレンジルームと引き続き連携し、対応ケース以外の認知症の市民の方とも交流できるようにしていく。</p> |
| <p>「介護予防や認知症がもっと身近になる」</p> <p>介護予防に取り組む人や認知症の方やその家族の応援者を増やす</p> | <p>介護予防の取り組みをもっと身近にするツール</p> <p>日常的に介護予防に取り組めるツールを市民や専門職と協働で発行する。</p> <p>○介護予防カレンダーの発行（8500部）</p> <p>認知症サポーター養成講座の実施</p> <p>認知症を正しく理解し、認知症の人の応援者を増やす。特に若年層への認知症の理解を促進するため、参加したくなる、参加しやすい企画を実施。</p> <p>○認知症サポーター養成講座の実施（年間400人） ○フォローアップ講座の実施（年1回）</p> | <p>○介護予防カレンダーの発行（8500部）</p> <p>介護カレンダー作成に伴い、医療職部会・通所リハビリ事業所連絡会・やすらぎクラブなどと共に検討を重ね、内容を決定した。</p> <p>6796部配布済み。</p> <p>○認知症サポーター養成講座の実施</p> <p>認知症サポーター養成講座：11回開催（242名養成）今年、企業からの申し込みが少なかったものの、自治会・老人会からの申し込み増えました。</p> <p>○フォローアップ講座の実施</p> <p>キャラバン・メイトのフォローアップ講座：「認知症世界の歩き方」の講座参加を提案し、9名の申し込みがあった。</p> | <p>介護予防カレンダーを作成するにあたって、専門職ややすらぎクラブなど市民の方とともに、検討する事が出来た。出張講座でも利用いただき、介護予防に活用出来ている。</p> <p>・認知症サポーター養成講座の受講者が目標に満たないが、70歳代以上が昨年より増えている。この2年間、コロナ禍で高齢者が活動を控えておられたが、今年度は、老人会から講座の申し込みをいただく事が多かった事が要因と考える。</p> <p>・フォローアップ講座の位置付けとしてメイトに案内を送り、講座に参加いただく事が出来た。</p> | <p>・介護予防カレンダーの内容は、高齢者やその家族が取り組みやすいものとし、出張講座の資料などとして、各包括と共有できるようにしていく。</p> <p>・各包括と相談し、介護予防の講座の資料などの共有を検討する。</p> <p>若い世代に認知症の知識やその対応方法を知っていただく為、認知症サポーター養成講座のオンラインの講座を開催するなどの工夫をする。</p> |
| <p>「つながりや、連携の輪をひろげる」</p> <p>職種や属性をこえた連携体制の構築</p> | <p>各種事業所連絡会の実施及び運営支援</p> <p>在宅介護に関わる事業所や介護支援専門員の交流等を目的とした連絡会の実施。</p> <p>○各種事業所連絡会の開催 ○介護支援専門員スキルアップ研修の実施（年1回）</p> <p>地域ケア会議の活性化</p> <p>校区の地域包括支援センターと連携し、各地域ケア会議から見た地域課題を整理し、包括ケア会議などへ提案する。また、効果的な地域ケア会議を実施するための研修会を実施する。</p> <p>○包括ケア会議の開催（市共催で月1回） *R4年度～市が主催へ変更 ○地域ケア会議に関する研修会の実施（年1回） ○各地域包括支援センターの実施する地域ケア会議への参画</p> | <p>○各種事業所連絡会の開催</p> <p>通所リハビリ事業所連絡会：6/29・2/22 小規模多機能居宅事業所連絡会：連絡会5回、10月運動会開催 居宅介護支援事業所連絡会：8/30・3/17 通所介護11/18・訪問介護10/28・短期入所事業所連絡会：3/10 ○介護支援専門員スキルアップ研修：12/2に居宅支援事業所におけるBCP研修実施（ハイブリット）</p> <p>○包括ケア会議への参画</p> <p>毎月参画（R4年度から変更） 地域課題や包括が困っている課題について、会議で検討出来た。</p> <p>○地域ケア会議に関する研修会 1/30参加（総合生活支援センター主催）</p> <p>○各地域包括支援センターの実施する地域ケア会議への参画</p> <p>西包括の地域ケア会議に参加 R4年度～変更あり</p> | <p>事業所連絡会は、コロナ対応など、事業所同士の情報交換の場となった。日程調整やコロナ対応で参加できる事業所の件数が少なかった連絡会もあったが、「実際に顔を見て話が出来て良かった。」と感想を聞いている。</p> <p>介護支援専門員スキルアップ研修については、市に協力いただき、ハイブリットで研修開催することができた。</p> <p>包括ケア会議は市が主催し、毎月参加出来ている。各地域包括支援センターのケア会議に参加できるよう、各包括と相談し、調整していく。</p> | <p>各事業所連絡会では意見を集約し、長岡京市の課題として検討を重ねていく。次年度の開催内容・開催については、状況に合わせて連絡会開催していけるよう運営委員と相談していく。介護支援専門員スキルアップ研修については、介護支援専門員のニーズに合わせて、内容を検討していく。</p> <p>地域包括支援センター連絡協議会で、各包括や生活支援コーディネーターと地域課題の情報の共有をし、包括ケア会議に提案できる様に取り組む。</p> <p>地域ケア会議の研修会・地域ケア会議への参画については、主任ケアマネジャー部会でも情報共有と検討を重ね、次年度の方向性を決めていく。</p> |
| <p>「だれかの困りごとが自分事になる地域に」</p> <p>個別支援と地域支援がつながる連携を目指す</p> | <p>生活支援コーディネーターとの連携強化</p> <p>個別支援と地域支援が一体的に実施できるよう、地域課題の抽出や課題整理など、地域包括支援センターと生活支援コーディネーターの連携を推進する</p> <p>○地域包括支援センター連絡協議会の開催（年12回） ○地域ケア会議や協議体への参画（随時）</p> <p>チームオレンジ</p> <p>キャラバン・メイトや認知症サポーターと一緒に、認知症の方とその家族に対してできることを企画、実施</p> <p>○キャラバン・メイト、認知症サポーター、その他関係機関が参画する協議体の立ち上げ及び運営</p> | <p>○地域包括支援センター連絡協議会の開催：毎月開催。</p> <p>介護支援専門員の人員不足からセルフケアプランについても検討し、コロナ対応、認知症や精神科受診、地域ケア会議・個別ケア会議の開催方法など、情報共有や検討できた。</p> <p>○地域ケア会議や協議体への参画</p> <p>各包括の地域ケア会議で出た課題等、適宜情報共有している。</p> <p>チームオレンジ</p> <p>・オレンジロードつなげ隊の研修に参加した。また、オレンジロードつなげ隊の啓発活動で、マリーゴールドの花の種を配布するため、現在、保育所に「マリーゴールドちゃん」がプリントされた封筒に色付けを依頼した。マリーゴールドの種を封筒に入れ、シンポジウムで配布。</p> <p>・アルツハイマー月間として、9/1に各包括と協力し、認知症に関する書物を図書館の展示した。9/2～10/23の期間実施していたが、好評を得、10/31まで延長の図書館より申し出あり。「とく」に掲載して周知し、新聞にも掲載いただいた。</p> <p>・本人ミーティングとして、認知症型カフェを利用し、若年性認知症の方の想いを聞くなどし、本人の活動をサポートできるよう、体制を調整している。</p> | <p>色々な内容を会議で話し合うことができ、各包括間で意見交換ができた。生活支援コーディネーターと地域の困りごとや気になることなど、適宜情報共有を行えたことは良かった。</p> <p>・オレンジロードつなげ隊の啓発活動として、保育所の協力を得、親子で認知症について考えていただける機会を得ることができた。マリーゴールドの種を配布し、啓発活動が出来たと共に、オレンジガーデンプロジェクトの活動にも参加出来ている。</p> <p>・昨年に引き続き、図書館での啓発を行い、開催期間延長になるなど好評だった。新聞・「とく」に掲載していただき、広報できた。</p> <p>・本人ミーティングを重ね、認知症になっても自分の想いや意向を確認していくことが出来ている。</p> | <p>引き続き、継続して情報・意見交換していく。</p> <p>・チームオレンジの活動は、本人や家族と共に実施出来ることの検討を重ね、本人の意向を実現していく。</p> <p>・4/1福祉まつりで、認知症の啓発ブースを検討中。</p> <p>・認知症サポーターの意見を集約できる機会を作り、活動内容を検討していく。</p> |